

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
国際観光論 <b>International Tourism</b>		2年	後期	金曜日・3時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
地域観光論、トラベルコーディネート				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
地域観光論、トラベルコーディネート				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小鮎 滋則	講師室	金曜日 10時から16時(授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
日本人の海外旅行の実情、その背景と仕組みなどの基礎知識と、日本を訪れる訪日外国人旅行者の動向や受け入れ側の課題などを理解し、国際観光の状況、意義、効果などを学びます。				
授業の到達目標				
海外旅行をする際に必要な基礎知識を理解することや、国際観光を通じた国際交流のあり方について見識を深めることが出来るようする。				
授業の方法				
講義が主体となります。				
学習の成果				
この授業を履修すると、あなたは①日本人の海外旅行の実情および訪日外国人の動向や受け入れ課題に関する基礎知識を習得することが出来る。②国際交流のあり方について見識を深めることが出来る。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・国際観光の概要説明			
第2回目	観光の始まり、観光の歴史			
第3回目	各国の観光の現状			
第4回目	わが国の観光政策と観光行政			
第5回目	日本人の海外旅行①			
第6回目	日本人の海外旅行②			

第7回目	ここまでのまとめと演習問題		
第8回目	訪日外国人旅行者誘致の歴史（明治時代から今日まで）		
第9回目	インバウンドの現状 ①（ビジットジャパンキャンペーン・訪日外国人旅行者の現況・他）		
第10回目	インバウンドの現状 ②（国際コンベンション・地域マーケットの特性・誘致と受け入れ課題・法律）		
第11回目	インバウンド関連産業の現況と課題-①(旅行業・宿泊業)		
第12回目	インバウンド関連産業の現況と課題-②(運輸業・観光施設・通訳ガイド)		
第13回目	外客誘致機関と新たな取組（JNTO・その他関連団体・地方自治体・今後の展開）		
第14回目	インバウンドの実務(予約依頼・仕事の流れ・依頼と回答の事例・他)		
第15回目	まとめと定期試験		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		20%	授業で使われる教材を準備して臨んでいる。授業に集中し、必要なことはきちんとノートに取る。積極的に質問する。
レポート			
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		60%	15回目の講義時間に定期試験を行います。
発表内容（態度含む）		20%	各人に与えられた学習課題の発表内容と態度を評価します。
その他			
教科書と参考図書			
「インバウンド概論」 ジェイティーパー能力開発			
履修上の心得・ルール			
国際交流の意義を念頭において学習してください。			